

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	光環境シミュレーション小委員会	主 査 名：鈴木広隆 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：古賀靖子
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、測光量シミュレーションの計算精度向上に加え、その他の光や視覚に関わる環境にもシミュレーションの範囲を広げ、設計の場で光環境シミュレーションを普及させることを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●初年度：昼光シミュレーション WG は、天空輝度モデルの検討、計算精度の検討、ニーズの把握を行い、輝度・可視性シミュレーション WG は、様々なシミュレーションの可能性の検討を行う。</li> <li>●2 年度：昼光シミュレーション WG を中心として、昼光シミュレーションを一般に普及させるための実習的な公開研究会を行う。</li> <li>●3 年度：昼光シミュレーション WG は公開研究会の結果を整理し、今後必要とされるシステムの要件をまとめる。輝度・可視性シミュレーション WG は、光・視覚が関係する様々なシミュレーション対象のマトリクス化を行う。</li> <li>4 年度：輝度・可視性シミュレーション WG を中心として、光・視覚が関係する様々なシミュレーションを紹介する公開研究会を行う。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：鈴木広隆(神戸大学) 幹事：岩田朋子(大阪市立大学) 委員：一ノ瀬雅之(首都大学東京)、上谷芳昭(京都大学)、大井尚行(九州大学)、菅野普(旭化成ホームズ)、中村芳樹(東京工業大学)、原直也(関西大学)、細淵勇人(秋田県立大学)、三木保弘(国土交通省国土技術政策総合研究所)、吉澤望(東京理科大学)、渡邊健一(日建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	昼光シミュレーション WG：昼光シミュレーションを一般に普及させるため、天空輝度モデルの検討、計算精度の検討、ニーズの把握、実習的な公開研究会の運営を行う。 名称：輝度・可視性シミュレーション WG：光・視覚が関係する様々な環境シミュレーションの可能性を検討し、それらを整理する。その上で、それらのシミュレーションを一般に紹介するための公開研究会を行う。	
2011 年度予算	65,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
<b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)	本年度は昼光シミュレーションの公開研究会を行う予定であった。2013/2/22 に予定通り公開研究発表会を行うが、スケジュールの問題により、学会正式行事の「公開研究会」ではなく「拡大公開委員会」という形になった。当初の目的である、「光環境シミュレーションの普及」という観点からは、開催スタイルの違いは問題ないと考えられるが、学会外へのインパクトを考慮すると、学会正式行事である「公開研究会」として実施すべきであったと考えられる。このため、達成度は75%と考えている。
<b>委員会活動の問題点・課題</b>	主査の事務手続きの遅れにより、「公開研究会」として実施できなかったことが小委員会運営上の大きな問題であった。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。